

解答例または出題の意図

2026年度 法学部 編入学・学士入学試験問題

科目名

社会科学

出題の意図

問1

今後、本学部で学ぶことになる受験者が、法学・政治学を学ぶ目的や意図を正しく理解できているかを問うとともに、リーガル・マインド獲得のために、授業の受動的聴講以外に必要な手段を正しく自覚できているかを確認する問題である。

また、諸要素につき整理のうえ、説得的な文章を書かせることで、リーガル・マインドの要素のひとつ「論理的思考」能力の有無をも問うものである。

問2

二つの異なる「司法」の根底にある「思想の違い」を正しく理解できているかを問うとともに、それらを互いを対比させつつ、「修復的司法」の有するメリット・デメリットを正しく考察・抽出し、論理的かつ説得的な文章が構築できるかを問うものである。

本試験問題の一部あるいは全部について、いかなる方法においても複製・複製など、著作権法上で規定された権利を侵害する行為を行うことは禁じられています。

解答例または出題の意図

2026年度 法学部 編入学・学士入学試験問題

科目名

法学全般

第1問について。近代民法の基本原則として、一般に、権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、私的自治の原則（又は契約自由の原則）、過失責任の原則等が挙げられる。これらの基本原則について設問の指示に従った論述を求めるものである。

第2問について。取得時効による所有権取得を主張するために対抗要件の具備が必要であるかどうかについては見解の対立がある。この問題を、取得時効完成時の所有者に対して主張する事例と、取得時効完成後に新たに登記簿上の所有者となった者に対して主張する事例の各々について検討し、両事例について一貫した立場からの論評を求めるものである。

本試験問題の一部あるいは全部について、いかなる方法においても複写・複製など、著作権法上で規定された権利を侵害する行為を行うことは禁じられています。